

地方小出版

アクセス

情報誌

毎月1回 1日発行
 購読料 定価 150円
 (本体 136円)
 年間 1,500円 (税込み)
 振替 00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
 編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町 20
 TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

「2023ブックインとっとり」地方出版文化功労賞特別賞

『鹿児島錫山鉱山遺構目録』

志賀美英著・南日本新聞開発センター発行

文/鹿児島大学名誉教授 志賀 美英

1 本を書いた背景

草木に覆われた茂みの中で偶然遺構に遭遇したときは、その立派さに只々感動するばかりである。しかしその感動はやがて冷め、遺構はそれがいかに立派であってもいずれは忘れ去られ消えていく、と「見た者の責任」のようなものへと変わっていく。そこで、だれもがそこにたどり着けるような記録を残そう、と本書の執筆を考えた。

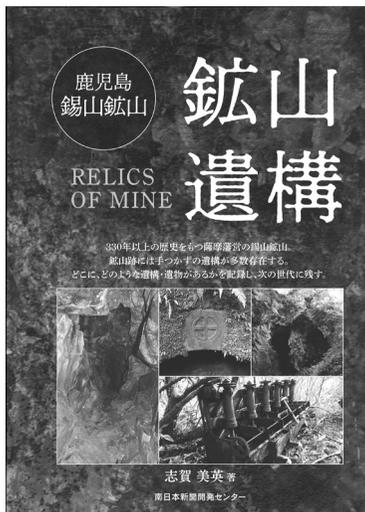
本書には構成上の特徴がひとつある。各遺構の記載が「アクセス」で始まっていることである。「アクセス」には、だれもが容易に現場にたどり着けるように、遺構に至るまでの図や目印となるようなものの写真を多く掲載した。

第4章6の8 立神岳湧上り

アクセス

アクセスは容易であるが、看板はない。錫山公民館「立神館」から岩屋に至る錫山自然遊歩道の途中に、広瀬川に架かる最初の橋がある(第5図)。橋の下には幅約3メートル、落差約10メートルの滝がある。立神岳湧上りはこの滝付近から遊歩道が360度急旋回する手前まで約100メートル続く。遊歩道右側の茶褐色に錆びた崖が湧上りである。崖の最高は最大5メートルである。茶褐色を帯びた崖はここ以外にないので、見逃す心配はない。

錫山公民館からここまで車で10分、徒歩で30分である。遊歩道が360度急旋回するところで下車し、駐車する。崖が崩落する危険があるので、学術調査の目的以外では露頭の標本採取は避けてほしいものである。錫山自然遊歩道は鹿児島市の管理下にあるので、事前に市の許可を得ることが望ましい。

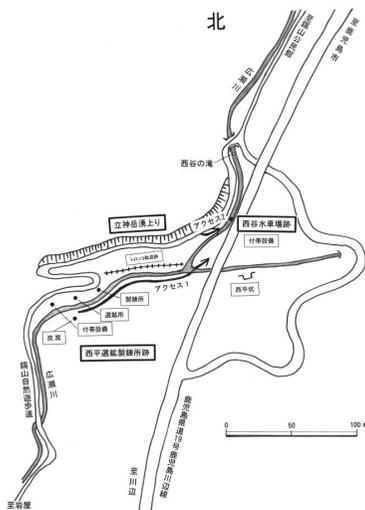


『鹿児島錫山鉱山遺構目録』志賀美英著・南日本新聞開発センター刊/A4・定価(本体4000円+税) / ISBN978-4-86074-295-9

2 錫山鉱山跡に残るおもな遺構と遺物

表1 錫山鉱山のおもな遺構

- 1 錫山鉱山最古の坑口
 - 2 山師の屋敷内坑道 3カ所
 - 3 八木主水佑元信墓所及び開発初期の山師の墓石群
 - 4 炭窯跡 7カ所
 - 5 狸掘り坑道群 2カ所
 - 6 湧上り鉱床 3カ所
 - 7 日本吹溶解炉跡
 - 8 水車場跡
 - 9 岩屋疎水坑
 - 10 選鉱製錬所跡 2カ所
 - 11 島津家紋入り坑口
 - 12 山師の屋敷群跡 2カ所
 - 13 トロッコ軌道跡 7カ所
 - 14 水路・水槽
 - 15 自家発電設備跡
 - 16 鉄索跡 2カ所
 - 17 石切り場
 - 18 古井戸 3カ所
 - 19 女郎墓
 - 20 神社・石燈籠
- (約20種類、42カ所程度)



御手山湧上り鉱床の洞穴状採掘場跡



鉱石を積み出す軽便トロッコ専用の坑道



流水でえぐり取られた日本吹溶解炉



薩摩藩主島津家の家紋入り坑口

表2 錫山鉱山のおもな遺物

1 採鉱道具 ・鑿 ・鋤	5 製錬道具（日本吹用） ・日本吹溶解炉 ・羽口（鍛付き） ・十能 ・鉄鍋
2 運搬道具 ・手押し式軽便トロッコ のレール・枕木 ・レールを固定する釘	6 鍛冶道具 ・金床
3 選鉱道具（鉱石破壊用） ・叩き石 ・石臼	7 鋳 8 薩摩錫器
4 選鉱道具（鉱物選別用） ・ウィルフレー淘汰盤 ・浮遊選鉱機	9 錫器製造用木製型・鉛製型・石膏製型 10 文書・日記等 ・私有地稼生産作業許可契約書、その他



浮遊選鉱機

左：大型のもの2基、右：小型6連結のもの1基

現存する遺構や遺物から、江戸中期から昭和63年（1988年）の閉山までの鉱石の採掘法、運搬法、選鉱法、製錬法の変遷を見ることができる。

例えば、江戸末期頃までは、腰をかかめて這ってしか進めないような窮屈な坑内で鑿と鋤で鉱石を採掘し、手子と呼ばれる子どもが鉱石の入った籠を背負って坑口まで運んでいた。それが明治維新期になると、ダイナマイトで岩盤を崩し鉱石を採掘するようになり、坑道も広くなり、鉱石の運搬に軽便トロッコや索道を使うようになって

た。製錬法も、文政の頃までは日本古来の日本吹溶解炉だけで製錬を行っていた。

この方法では不純物の多い錫（錫含有量約96%）しか造れなかったが、文政12年（1829年）に但馬国の住人沼田幸兵衛が南蛮絞吹法を導入し、錫の品位を約99%にまで高めた。

さらに明治に入って某外国人（名前等不詳）が松の生木を使ったボイリング法を導入し、錫の品位を約99.8%にまで高めた。この錫は正錫と呼ばれ、薩摩錫器等の原料となった。

3 考察：錫山鉱山史上最大の変革 —西洋式近代化—

明治維新期に、錫山鉱山の近代化に貢献した人物に、朝倉盛明とフランス人鉱山技師フランシスク・コワニエがいる。

慶應元年、薩摩藩は4名の使節団と15名の留学生を英国に派遣した。留学生の一人に朝倉盛明がいた。鎖国時代であったので、幕府に知られては一大事とばかり、奄美大島に用事で行かせると偽って密航させたのである。

朝倉とコワニエの略歴は次の通りである（おもな出展：フランシスク・コワニエ著石川準吉編訳,1944;門田明,1991;いちき串木野市,2019）。

慶應元年（1865年）4月、鹿児島県いちき串木野市の羽島港を出航。

同年6月、ロンドン着。

同年10月、朝倉はロンドン大学の聴講生^{脚注1}となる。

同年11月、朝倉は聴講生をやめ、フランスに渡る。

慶應2年（1866年）、朝倉はフランスで鉱山学とフランス語を学び、ここでコワニエと知り合う。

慶應3年（1867年）、朝倉は帰国し、フランス語教師として薩摩開成所に勤務。コワニエを薩摩に招き、領内のおもな鉱山を視察して回り、問題点を指摘し、改善の方法を述べ、西洋式近代化の必要性を説く。例えば、坑道が狭く窮屈だから広くせよ、坑道の掘削にはダイナマイトを使え、などである。

明治元年（1868年）9月、コワニエは明治新政府最初の雇外国人に雇用される。任期は10年。任期中に、朝倉らとともに全国各地のおもな鉱山を視察して回り、薩摩藩にいたときと同様、西洋式近代化の推進を説いた。

明治10年（1877年）1月、コワニエは任期満了となりフランスに帰国。

明治19年（1886年）5月、朝倉は内閣総理大臣伊藤博文から初代生野鉱山局事務長に任ぜられる。

明治22年（1889年）、朝倉、退官し生野を離れる。

—*—

脚注1 ロンドン大学の聴講生になったのは朝倉だけではない。留学生のほとんどはロンドン大学の聴講生になった。聴講生になるのは簡単である。入試があるわけではない。金を出せばだれでも入れるし、いつやめてもよいというしぼりの少ない学生である。言葉が分からないので授業に出てもチンプンカンプンだったと思われる。街の中をブラブラしているほうがよほど勉強になったであろう。蒸気機関車が大量生産された様々な製品を積んで走っている様子や人々の豊かな生活などを目の当たりにし、日本とはえらい違いでビックリの連続だったに違いない。彼らが目にしたのはまさに、産業革命^脚注2 直後の西洋諸国の姿であった。

脚注2 よく知られているように、産業革命は1700年代後半にイギリスで始まった。それが、1830年代にイギリスからフランス・ベルギーへ、1850年代にドイツへと伝わり、さらにロシアを経て、1890年代に日本に伝わったとされている。1890年代というのは、朝倉が退官して間もない頃に当たる。

—*—

この略歴から、日本に産業革命をもたらしたのは使節団や留学生、雇外国人たちであったということがよく分かる。また、明治新政府が雇った最初の外国人が鉱山技師だったという事実は、日本の産業革命は鉱山から始まったことを強く示唆している。もしそうならば、日本の産業革命の先駆けはこの外国人鉱山技師を最初に招いた薩摩藩だったということになる。更に言えば、その最大の実質的貢献者は錫山鉱山など藩営の鉱山を視察して回り西洋式近代化の推進を説いた朝倉とコワ

ニェだったということになる。

考察の結論：

幕末から明治維新期に薩摩藩・島津家が西洋から学んだもの、それは産業革命そのものであった。技術だけでなく、資本主義社会のシステムや豊かさ、価値観なども学んだ。この新しい技術や価値観などは錫山鉱山の経営に大いに生かされた。例えば労使関係で言えば、山師たちを島津家に勤めるサラリーマンに転身させ、資本家島津家—労働者錫山鉱区民という関係を確立した。

西欧の新しい技術や価値観などを導入して大鉱業所を創設した錫山変革は「錫山の産業革命」「錫山の明治維新」と言うにふさわしい大変革であったと結論付けられる。錫山鉱山と同様の変革は県内の多くの鉱山で、さらには日本中の鉱山でほぼ同時に起こったと思われる。

4 提言

錫山鉱山跡には文化的・学術的に貴重な遺構や遺物がほぼ手つかずのまま残っている。これらは錫山地域の財産であり、鹿児島市・鹿児島県の、更には日本の財産でもある。しかし、稚児ヶ滝選鉱製錬所跡や西平選鉱製錬所跡などに見られるように、遺構の傷みは年々進んでおり、消滅しそうなものもある。鹿児島市、鹿児島県及び国家の関係機関には文化財（産業遺産）として保存するよう提言する。

5 刊行後の反応

(南日本新聞開発センター)

2022(令和4)年8月の発行後、23(同5)年10月までの販売冊数は

101冊である。発行当初、新聞広告を見て「昔近くに住んでいて懐かしい」といって購入された人もいたが、鹿児島市の錫山地区の遺構・遺物の紹介がメインであるにも関わらず、全国にいる鉱山・鉱石ファンや歴史文化財に興味がある人にも読まれているようだ。それを裏づけるように、県内の書店や南日本新聞販売所での販売冊数は71冊、全国に発送を手掛けるアマゾンでの販売は30冊と約3割を占めている。同書は地方の出版活動を応援する「2023ブックインとっとり」で、地方出版文化功労賞特別賞を受賞。2021(同3)年9月～22(同4)年10月に倉吉市立図書館で展示された約350点のうちから13点に選ばれ、県内の図書館長や学識者らの審査員により最終的に選出された。受賞を記念して11月4日にはZoomによる講演会も行われた。

そのほか、著者は鉱物資源の普及活動を展開した功績を評価され、2023(同5)年の「第56回MBC賞」も受賞した。同賞は、鹿児島県の放送局である南日本放送が昭和43年の創立15周年を機に、ふるさと・鹿児島への貢献が将来にわたって期待される団体や個人を支援しようと設立した表彰制度である。

『鹿児島錫山鉱山遺構目録』刊行がきっかけとなったかは分からないが、上述の2つの賞を受賞していることから、著者および同書が鹿児島にとどまらず全国的に評価・注目されていることがうかがえる。

*

(しが よしひで/鹿児島大学名誉教授)

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

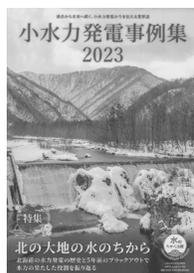


弊社のホームページでは半年前までの本誌バックナンバーをアップしております。また「新刊ダイジェスト」のバックナンバーもたくさん掲載しています。アドレスは下記の通りです。右記のQRコードもご利用ください。

URL : <http://neil.chips.jp/chihosho/>



『小水力発電事例集2023』●全国小水力利用推進協議会編



エネルギーとして水の力を利用する発電は欠かせない。本書は北海道の水力発電の歴史を振り返るとともに平成30年9月に起った北海道胆振東部地震により発生した日本初のブラックアウトについて論じる。

北海道ではじめて電灯が灯ったのは、明治22年に札幌の北海道製麻会社札幌工場、自家用発電施設による。電気事業は2年後の明治24年に札幌電燈舎が開業する。その後明治39年岩内水力電気(株)の敷島発電所、明治40年定山溪発電所、大沼発電所、千歳第一発電所、野花南発電所と続く。現在道内で水力発電を行っているのは、北海道電力(株)、電源開発(株)、北海道企業局、国土交通省、王子製紙(株)、ほくでんエコエナジー(株)、新日本電工(株)などである。戦後、農山漁村や離島への電力供給が進められた。昭和24年から昭和28年にかけて小水力

発電所89カ所が設置された。小水力発電所の出力は平均37kwである。

胆振東部地震は、最大震度7で、震源近く20km四方内の8000カ所以上の地点で地すべりがおき道内で41名の死者が出るなど大きな痕跡を残した。北海道電力苫東厚真発電所では火力発電機3基の内2基が自動停止、稼働していた1基が17分後に停止したため道内全域が停電となるブラックアウトが発生した。水力発電所はブラックアウトに対し、安定的な供給力を果たした。その役割は大きかった。とりわけ王子製紙の千歳発電所が電力を供給する支笏湖温泉では北海道電力から独立した別の電力を供給する体制になっていたためブラックアウトは免れている。(古賀河川図書館・古賀邦雄)

◆800円・A4判・76頁・水のちから出版・東京・202310刊・ISBN9784991107948

『中世「村」の登場－加賀国倉月荘と地域社会』●若林陵一著



倉月荘は現在の金沢市北東部で浅野川周辺にあった荘園である。加賀国の荘園では大野荘(金沢市)や熊坂荘(加賀市)などが知られた存在だが、倉月荘も一般的な中世後期の荘園の特徴を持ち合わせていたことがわかる。倉月荘の初見は弘安10(1287)で、それ以前はどうか知りたいところである。

20年後には亀山天皇の娘・昭慶門院の御領家に対し、鎌倉御家人撰津氏の地頭請が成立していた。撰津氏は鎌倉幕府崩壊後も引き続き室町幕府御家人・奉公衆となっており、15世紀半ばには「倉月庄地頭・領家両職」を有するようになる。このことから、この地においても中世後期の現象、すなわち「職の体系」が崩れ、「職の一円化」が進行していたことが確認できる。室町期には撰津氏以外にも複数の領主(禅

宗寺院や公家)が荘内に存在しており、複数の「村」の出現との関係が指摘されている。とはいえ、対立関係ではなく相互補完の関係にあったことは見逃せない。

一方で15・16世紀にこの地において活発化する本願寺勢力・一向一揆が「村」を単位に浸透、この地特有の展開を見せる。倉月荘内の諸江村は「諸江惣村」とも記されるように自治的な村落へと成長していた。本願寺下で「大坊主」寺院のひとつである光徳寺の講中に、木越や大浦などの村が参加するなど各「村」が独自に行動している。これらのエネルギーが、長享2年(1488)に守護富樫政親を滅亡へと追い込むのである。(1)

◆2700円・A5判・229頁・桂書房・富山・202310刊・ISBN9784866271415

『元禄の「グラミン銀行」－加賀藩「連帯経済」の行方』●勝山敏一著



グラミン銀行というとノーベル平和賞も受賞した貧困者に対する無担保低金利による融資で知られています。そのグラミン銀行に似たシステムを著者は江戸時代の加賀藩に見出します。そのひとつが宿続き銀。加賀藩が用意した資金を各浦・各宿の肝煎を責任者とし、それを貧民に貸し出させて商売をさせ、その利益から借り手が一日一文ずつ積立てていき、また必要な者に貸し出していくという制度です。そのほかにも除け銭という貸金からいくらかを積立てておいて、新米の出回る時期に米を買い、春の値上がりする時期にそれを配る制度や、置き米という船主が港から米を運び出す際にいくらかを差し除けておくという制度もありました。

いずれの制度も貧しい者たちが連帯して資金を積み立てておいて、困窮時にそこから使うと

いう形をとっています。またいずれの制度も町人たち自身の手によって運営されているのも特徴です。著者はこれらの制度について当時の考え方として、生活保障の第一義的責務が民間にあることと述べています。そして民間では対処できなくなると庶民は逃散などの手段で為政者へ訴えました。宿続き銀も逃散対策として加賀藩から打ち出されています。

また「ただ暮らしせぬよう」など、現代の生活保護を恥とするような視点もすでに見られる点も興味深いところです。これらの制度は明治時代に入るまで約200年続きました。その背景と当時の庶民の思想を解き明かしていきます。(副隊長)

◆2000円・四六判・209頁・桂書房・富山・202311刊・ISBN9784866271439

『神保町 本の雑誌 一別冊本の雑誌22』 ●本の雑誌編集部 編



神保町と聞けば、本好きならずとも、本の街が連想されるであろう。160軒を超える古本屋が居並び、新刊書店、出版社など本に関わる様々な業種で地場産業を形成している。だが、神保町の魅力は、それに尽きるものではないことを、この本は教えてくれる。

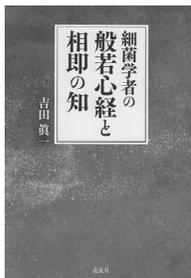
序章の「神保町で遊ぼう！」は、古本屋の愉しみに始まり、コーヒー、カレー、中華、つけ麺、スイーツ、居酒屋、楽器店、スポーツ店、パチンコ屋、さらに、書店スペースで催される浪曲、落語会と、この街の多様さを一気に紹介する。次章「本の街の秘境に挑め！」は、神保町熱愛者の徘徊模様、二階以上にある古本屋の入店難易度、出版社社員によるランチ対決、餃子、おしゃれ酒場などのベスト5と、マニアック度が高まる。古本業界の重鎮は、「神田古本

まつり」の呼称を、「神保町古本まつり」に変えたいと熱弁を振る。終章「やっぱり神保町が好き！」では、街の変化を懐かしむ思い出の神保町語り、この10年で新しくできた古本屋ガイド、神保町系愛書ブログの極致ともいえるべき「神保町のオタ」、建て替え中の三省堂神保町本店への期待、出版各社おすすめのレストラン、コーヒー焙煎のこだわりとダメを押す。

この街は古いものと新しいものが融合し、小規模経営を成り立たせて多様な文化を創り出している。裏路地にも発見が。さあ、自分の神保町を探しに出かけよう。(飯澤文夫)

◆1800円・A5判・213頁・本の雑誌社・東京・202311刊・ISBN9784860114848

『細菌学者の般若心経と相即の知』 ●吉田眞一 著



著書が仏教と出会ったのは、十七歳の時、生まれ育った長崎に南北朝時代創建の臨濟宗のお寺があり、同級生に誘われ山門をくぐった時、読経の響きに意味もわからないまま心奪われたという。その年頃特有の悩みや漠とした不安、疑問を受け止めてくれたのもそのお寺の住職と仏教の哲理であった。その後、大学の医学部に進み、細菌や免疫の研究に没頭することになるが、独自に仏教研究で研鑽を積んできた。本書はその集大成となるものであるが、仏教の教えを優しく噛み砕いて一般化するという自己啓発書の類とは一線を画す。著者が本書で繰り返すのは、様々な仏教宗派を貫く「即」の論理構造である。華嚴仏教では「一即多・多即一」、般若心経では「空即是色・色即是空」等と言われ、

後の時代に西田幾多郎が「絶対矛盾的自己同一」と概念化し、それを継いで在野の仏教哲学者、中山延二がこれを「矛盾的相即」と表現した。「この世にあらわれるものは、必ず矛盾を含んでいる」あるいは「具体的なものは、いつも相手側に根拠を持っている」とも説明される。抗体は常に抗原に根拠をもつ、あるいは、国家試験に通れば医師になれるのではない、患者を診ることで初めて医師になる、と自身のフィールドである免疫学や教育現場での事象でこれを説明するところが著者の面目躍如といったところである。この「即」の論理を掴みとったとき、あらゆる迷いが消えた、と著者は言っている。(N)

◆2000円・四六判・292頁・花乱社・福岡・202311刊・ISBN97849110038827

『老いの俳句 一君とつるりんしたいなあ』 ●坪内稔典 著



〈びわ食べて君とつるりんしたいなあ〉〈三月の甘納豆のうふふふふ〉〈たんぼぼのぼぼのあたりが火事ですよ〉などの代表句がある著者。口語で俳句を作り、正岡子規研究の第一人者でもあるが、間もなく80歳の大台を迎えようとしている。

そこで老いの俳句についてあれこれと考える。もともと俳句人口の大半は老人であり、いつの時代も俳句は老人たちに愛されてきた。しかし、真面目な老人は俳人として面白くはなく、若い時にいい句を詠んでも、老人になると俳人として魅力を失うということがわかってきた。ここで言う真面目とは一生青春とか生涯現役とか、老いを退ける言い方をすること。また、認知症を防ぐために俳句を作りたいという人が多いが、それは間違いで、よばよば、おたおた、

よるよるがまっとうな一流の老人だと説く。傑作と思う俳人たちの句を書き写してみると、ほとんどが若い日の句であることに気づき、呆然としつつも老人の句の二大傑作として〈天の川わたるお多福豆一列 加藤椒郎〉〈爛々と昼の星見え菌生え 高浜虚子〉を挙げる。名だたる俳人でも老人になってからの句は多くが平凡、独善と斬りながらも、同年代の行方克巳の〈空蟬に象が入つてゆくところ〉というモーロク俳句に出会い、再び希望を見出す。俳句雑誌や句集の危機的状況や句会の重要さにも言及。俳人、まして老人は尋常や従順を捨て、ハチャメチャに言葉を使うべきと提案する、老いと俳句についてのエッセイ集。(Y)

◆1600円・四六判・213頁・ウエップ・東京・202310刊・ISBN9784866081496

売行良好書

期間：2023年11月15日～12月14日

※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

【出荷センター扱い】

- (1)『起きられない朝のための短歌入門』1700円・書肆侃侃房
- (2)『若手日報特別報道記録集 BIG FLY 大谷翔平 プレイバック 2023』1300円・若手日報社
- (3)『あなたのための短歌集』1700円・ナナロク社
- (4)『銀河鉄道の夜 四次稿編 第4巻』2000円・風呂猫
- (5)『利尻島から流れ流れて本屋になった』1700円・寿郎社
- (6)『風船ことはじめ』2200円・弦書房
- (7)『僕はなぜ一生外国語を学ぶのか』2000円・クオン
- (8)『たぶの里』1200円・ナナロク社
- (9)『日本産化石図鑑 採集と標本の作り方』2000円・南方新社
- (10)『スコット 南極探検日記』3000円・羽衣出版
- (11)『頭山満・未完の昭和史』3800円・花乱社
- (12)『淡海妖怪拾遺』1500円・サンライズ出版
- (13)『情報の歴史21』6800円・編集工学研究所



【ジュンク堂書店池袋店 地方出版社の本—センター扱い図書】

- (1)『越前・若狭 武将たちの戦国』1500円・岩田書院
- (2)『戦国の城と一揆』3000円・高志書院
- (3)『水上バス浅草行き』1700円・ナナロク社
- (4)『調査されるといふ迷惑』1000円・みずのわ出版
- (5)『石を巡り、石を考える』2000円・石風社
- (6)『出雲王国と天皇政権』2250円・大元出版
- (7)『明治維新と西郷隆盛』2130円・大元出版
- (8)『沖縄の身近な植物図鑑』4500円・ボーダーインク
- (9)『新装版 江戸という幻景』1800円・弦書房
- (10)『新版 奥多摩登山詳細図 東編 全148コース』900円・吉備人出版
- (11)『新装版 奥武蔵登山詳細図 全130コース』900円・吉備人出版
- (12)『新版 奥多摩登山詳細図 西編』900円・吉備人出版
- (13)『上宮太子と法隆寺』2778円・大元出版
- (14)『関ヶ原合戦の深層』2500円・高志書院
- (15)『虚子百句』800円・創風社出版
- (16)『サルタ彦大神と竜』2000円・大元出版
- (17)『出雲と蘇我王国』2200円・大元出版



以下ホームページ等でも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
 URL : <http://neil.chips.jp/chihosho/> X (旧ツイッター) 公式アカウント : @local_small

トピックス — ★★★

▼2年前刊行のブックレットですが、パレスチナが注目されている今、紹介します。南部真喜子 著 ISBN 9784894892842 本体価格800円【エルサレムのパレスチナ人社会 壁への落書きが映す日常—ブックレット《アジアを学ぼう》別巻19】。「本書では、このエルサレムという街の東側に位置し、パレスチナ社会の中核を成す東エルサレムという場所を中心に、この地で暮らす人々の日常と、それらを取り巻く占領の現状を書き表してみたい。二つの社会が混住しているとは言え、エルサレムのなかのイスラエル人の居住地区とパレスチナ人の居住地区には確かな棲み分けが存在し、その違いは通りを歩きながらもたやすく感じることができる。…なかでも東エルサレムの通りを歩いていて目をひくのは、色とりどりのスプレーで壁に落書きされた数々のアラビア語の文字、グラフィティ（壁への落書き）だろう。その多くは、占領に反対するスローガンである。「闘え」「エルサレムはアラブだ」「自由とは日々の実践である」—そんな言葉が、道沿いの壁、建物や家の外壁、電柱に並ぶ。これらの書き手は誰なのだろう。新しいグラフィティは、人知れず現れる。スローガンのそばに政党のロゴマークが記されているものもあるが、匿名のものも数多い。ある朝、当時住んでいた村のメインストリートの両側の壁がペンキで白塗りされ、その上に前日とは全く別のグラフィティが現れた。ある党派に属する村の若者たちが、党の指導者の命日を記念して夜中に書いたものらしかった。一夜にして景観が変わったのが面白くて、以来、路上の落書きに目を向けるようになった。すぐには意味が分からないものも含めて写真に撮り、あとで友人や近所の人たちに意味を教えてもらいながらグラフィティを集めることが次第にささやかな楽しみにもなった。…」



エルサレムという街の東側に位置し、パレスチナ社会の中核を成す東エルサレムという場所を中心に、この地で暮らす人々の日常と、それらを取り巻く占領の現状を書き表してみたい。二つの社会が混住しているとは言え、エルサレムのなかのイスラエル人の居住地区とパレスチナ人の居住地区には確かな棲み分けが存在し、その違いは通りを歩きながらもたやすく感じることができる。…なかでも東エルサレムの通りを歩いていて目をひくのは、色とりどりのスプレーで壁に落書きされた数々のアラビア語の文字、グラフィティ（壁への落書き）だろう。その多くは、占領に反対するスローガンである。「闘え」「エルサレムはアラブだ」「自由とは日々の実践である」—そんな言葉が、道沿いの壁、建物や家の外壁、電柱に並ぶ。これらの書き手は誰なのだろう。新しいグラフィティは、人知れず現れる。スローガンのそばに政党のロゴマークが記されているものもあるが、匿名のものも数多い。ある朝、当時住んでいた村のメインストリートの両側の壁がペンキで白塗りされ、その上に前日とは全く別のグラフィティが現れた。ある党派に属する村の若者たちが、党の指導者の命日を記念して夜中に書いたものらしかった。一夜にして景観が変わったのが面白くて、以来、路上の落書きに目を向けるようになった。すぐには意味が分からないものも含めて写真に撮り、あとで友人や近所の人たちに意味を教えてもらいながらグラフィティを集めることが次第にささやかな楽しみにもなった。…」

(風響社 web サイト紹介文から)

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



ネット通販で地方・小出版流通センター扱い本がご購入いただけます。



honto.jp

hontoではお客様の読書スタイルにあわせて電子書籍でも紙の本でもご購入でき、hontoポイントはネットでも書店でも使えて、貯められます。地方・小出版流通センター扱いのご当地本もネットでもご購入いただけます。くわしくは honto.jp へアクセスください。

